

赤血球ノ特選性染色法

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37954

赤血球ノ特撰性染色法

會員 岡 島 敬 治君

赤血球(ヘモグロビン)ノ特撰性染色ヲ左ノ方法ヲ以テ試ミタリ

フオルマリン、昇汞、重格魯謨酸加里等ノ固定液ニヨリ固定シタル材料ヨリ截片ヲ作ル

一、水

二、十%燐モリブデン酸水溶液中ニ三十秒乃至二分時間媒染ス

三、水

四、次ノ混液中ニ二十分乃至二十時間染色ス

(一) アリザリン 硫酸曹達抱和水溶液一〇〇立方仙

(二) 十%燐モリブデン酸水溶液三〇(一〇乃至五〇)

立方仙

五、水

六、アルコホール

七、キシロール、バルサム

以上ノ方法ニヨリテ赤血球即チ「ヘモグロビン」ハ染色時間ノ長短ニ從ヒ鮮橙紅乃至深橙紅色ニ染ム、結締組織維及ビ骨組織ハ時ヲ經ルニ從ヒ「モリブデン」ニヨリ青色ニ着色シ恰モ二重染色ヲ施シタルガ如ク強キ對照ヲ示ス
「ヘマトキシリン」又ハ他ノ核染料ニヨリ二重染色ヲ施セバ美麗ナル標本ヲ得

「アリザリン」ト「モリブデン」トハ使用前ニ混合スルモ可ナリ又混合シタル液ハ變化セズ長ク染色力ヲ有ス

本法ニヨル赤血球ノ着色ノ耐久性ハ特ニ揚言スルニ足ル

「アリザリン」ノ酒精性溶液ヲ用フレバ染色時間極メテ短ク而モ確實ナル着色ヲ得ルモ染色液及ビ標本ノ耐久性ハ著シク減弱スルモノ、如シ。

討 論

會員 塚口利三郎君

組織固定ニ際シ固定液中ニ當該組織中ヨリ一定ノ成分ガ浸出セラル、コトアルハ周知ノ事實ナルガ血球固定ニ際シテモ「ヘモグロビン」ノ一部ガ固定液中ニ溶出シテ一定度ノ「ヘモリーゼ」ヲ起スコトアルニ非ズヤ之ヲ決スルニ

無色ノ固定液ナレバ比較的容易ナレドモ有色ノ「クロム酸」及其鹽類、「ピクリン酸」等或ハ混液ニアリテハ單ニ色調ニヨリ「ヘモリーゼ」ノ有無ヲ檢出スルコト不可能ナリ然カモ之ヲ決定セザル以上例令外觀上血球ノ固定如何ニ完全ナルガ如キモ固定藥ノ眞價ヲ絕對ニ斷ズル能ハズ如此場合ニ若シ岡島博士ノ染色法ガ「ヘモグロビン」ノ特撰の証明法トシテ役立ツナレバ氏ノ染色法ニヨリ「ヘモリーゼ」ノ有無ヲ判定シ得ラル、譯ニシテ予ノ大ニ興味ヲ有スル所以ナリ次ニ蠟蠟血球ヲ硝酸ニテ固定スルニ鏡檢上高度ノ「ヘモリーゼ」ヲ証明スルニ拘ラズ液ノ着色鏡檢上同一程度ノ「ヘモリーゼ」ヲ惹起スル醋酸ニ比シテ遙ニ弱度ナリ而シテ他面赤白兩血球共ニ核強ク黃褐色ニ染色セリ之レガ解說ニハ一反溶出セル「ヘモグロビン」ガ再ビ核内ニ入り之ヲ染色シタラントセバ最モ好都合ナレドモ斯カル推定ノ果シテ可能ナルヤ否ヤヲ知ラズ唯此現象ハ「ヘモグロビン」ノ組織化學上何等カ寄與スル所アラシキ信ジ一言附加スルモノナリ

家兎ノ軟骨頭蓋模型供覽

會員 岡田耕三君

往年フオイト氏ハ之ヲ精細ニ究メソノ業績ヲ發表セリサレド氏ノ使用セル材料餘リ成熟ニ過ギ多少更ニ幼稚ナル時代ノ狀態ヲ看過シタル觀アリ故ニ余ハ更ニ幼稚ナル材料ヲ使用シテソノ發育ノ如何ニヨツテ多少成熟セルモノトノ間ニ如何許リ差異アルヤヲ告ゲ以テフオイトノ成績ノ足ラザルヲ補ハントシ二個ノ材料ヲ使用セリ一ハ受胎後十六日十九時間他ハ十五日十時間發育セシ胎兒ノ連續切片ヲ基礎トシテ平板模型ヲ作製セリ上記二個ノ模型及ビ他ノ一個ノ連續切片ヨリ得タル成績ヲフオイトノ業績ニ連絡スレバ凡ソ次ノ經路ヲ求メ得ベシ

一、幼稚ナル時代ニ於テハ後頭域ニ於テ初メ後頭柱現レ後蓋板之ニ次ギ更ニ顱頂板ノ發育ヲ見ル基底板ハ後頭柱ト共ニ亦早く現レ翼狀板ノ發生モ決シテ遅カラズ舌下神經管ハ少クトモ其後部最モ早く現ル

二、聽域中耳囊ハ初メ全ク獨立セルモ發育スルニ從ヒ先